米シリコンバレーから日本の総選挙を眺めれば

百家争鳴の「行政改革」実行力あるのか疑問だ

大前研一

今、アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーに来ている。スタンフォード大学の大学院でこの秋から月に一週間だけ教えるようになったからだ。

ところで、まず初めにアパートを探したが、これがほとんどないのだ。かってアメリカに住んでいた経験からすれば、アパートなどどこでもあるし、日本よりもとても安い、というのが相場だった。

ところが、この不動産価格は、今の東京の都心より高い。東京の中心部でもマンションの賃貸料はピーク時の約３分の１で、坪当たり月１万円を切っているが、ここはそのピーク時の東京と同じ値段なのだ。

そのくらいシリコンバレーはブームに沸いている。世界中から一攫千金をねらった情報通信関係のエンジニアと、そのおこぼれを狙った大企業が所狭しとひしめき合ったいるからだ。

アメリカの景気はすこぶる良い。経済成長は年率４％。株価は史上最高だし、失業率も近年では最低だ。大統領選挙のディベートで相手候補が何をけしかけても「経済の実績を見ろ！」の一言で終わりだ。

そんなアメリカにも光と陰があり、大都会の中心部は沈んだままだ。しかしコロラド、ユタ、アリゾナ、などの山岳部を初めとしたハイテク地帯は年率２０％以上で成長しているところも珍しくない。その繁栄のシンボルがシリコンバレーだ。レーガン革命で通信、金融、運輸の三事業を中心に規制撤廃したため、場所に関係なくどこでも起業できるようになった。これがインターネット時代とマッチして、まさに”偉大な田舎の時代”が来ているのである。東京がコケれば、全国一斉に転ける中央集権国家の構造的脆弱性がここに読みとれないだろうか？

今回の選挙では行政改革の公約が百家争鳴のごとく並べられているが、政治は結果を出さなくてはならない。特殊法人の整理統合を掲げた与党の改革で、議員達が勝ち取った成果はゼロである。そんな政治家達が、今度はどんな手法で省庁の統廃合をやるのだろうか？

レーガンやサッチャーのような一徹な政治家が見えない今、彼我の差は拡大するばかり、とさえ思われる。２０世紀の最後の４年間をつかさどるにふさわしい政治家が選ばれることを祈らずにはいられない。　（夕刊フジ10月16日号より転載）

皆さんの「声」をお寄せ下さい

会報「生活者通信」に掲載する、皆さんの「声」を募集します。奮ってご応募ください。

1)１編５００字以内。
　これ以上の寄稿は事務局にご相談ください。
2)内容は、本会報として相応しいと思われるものであれば自由です。
3)締切は毎月１０日とします。
4)寄稿された原稿は原則として本会報に掲載しますが、紙数の関係で割愛する場合もあります。
5)原稿には、氏名／住所／TEL/FAX/NIFTY-ID等を記入ください。
6)原稿送付先：事務局・杉原健児
　〒182 東京都調布市柴崎2-13-3つつじが丘ハイム C509
　TEL&FAX 0424-86-6497　NIFTY-ID GEF03673

※なお、会報「生活者通信」に関する忌憚ないご意見もお寄せ下さい。

会費納入のお願い

昨年１１月以前にご入会の方は、２年度の会費３０００円の納入をお願い致します。
送付用封筒に要更新年月が印刷されていますが、末尾が”未”の方は会費未納入です。また、昨年１２月以降ご入会の方も早めに納入下さい。
郵便口座番号　００１９０－５－２５２５５２
振込口座名称「平成維新を実現する都民の会」